

三沢市立三沢病院での小児科実習を終えて

弘前大学医学部医学科 5 年 長南 怜士

私は貴院小児科実習前、児童精神の分野に興味があったため、精神科医として子どもの心に主にアプローチしていくべきか、あるいは小児科医として身体と心の両面から成長を支えるべきか、その進路について悩んでいました。そのような中で、貴院にて2週間の小児科実習をさせていただいたことは、自身の進路を見つめ直す非常に貴重な機会となりました。実習前、小児科は主に子どもを相手にするため、言葉によるコミュニケーションが難しい診療科であるという先入観を抱いていました。しかし、実習中に江渡先生がおっしゃった「子どもは、色んなことを素直に教えてくれる」という言葉が、その考えを変えるきっかけとなりました。



実際の診療では、子どもたちは自分の状態を言葉で表現することが少ない一方で、表情や視線、声のトーン、動作、姿勢、機嫌の変化など、非常に多くの情報を発していることを実感しました。そして、それらの情報をどれだけ正確に受け取れるかは、知識や経験、観察力に大きく左右されるということを痛感しました。発達段階に応じた行動の意味を理解し、その子どもなりの表現を読み取ろうとする姿勢がなければ、重要なサインを見逃してしまう可能性があることを学び、私にとっての今後の課題となりました。

また、小児科では新生児から思春期までという、非常に幅広い年齢層の患者を診ることができる点にも強い魅力を感じました。発達段階によって疾患の捉え方や必要とされる対応は大きく異なり、身体的な問題だけでなく、心理的・社会的背景を含めて総合的にみる必要があることを学びました。加えて、小児科は一時期だけではなく、その後の人生につながる過程を深く考える領域であり、その重要な一部に医師として関わることの意義を日々の外来見学で実感しました。

さらに、小児科診療では、子ども本人だけでなく、その家族、特に保護者との関わりが重要であることを学びました。保護者の不安や戸惑いに寄り添い、適切な説明を行うことが、子どもにとってより良い環境が整えられていくことを教えていただきました。この経験は、将来児童精神を志す者として、子どもを取り巻く家庭や社会環境を含めて支援していく必要性を再認識しました。

最後に、ご多忙の中、ご指導くださった江渡先生、鈴木友希先生、鈴木峻先生、館田先生、小谷先生、並びにスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。貴院小児科の通いやす

い雰囲気は、様々な方の工夫により作り上げてきたものだと感じた2週間でした。今回で得た学びを糧に、患者一人ひとりに向き合える医師を目指し、今後も学習を続けていきたいと考えています。

実習期間：2025.12.22～2026.1.9